

テーマ：音

西巣鴨第三保育園（豊島区）

テーマを設定する

身近な生き物に興味があり、想像してなりきる姿がよく見られる。歌やダンスなどの表現遊びも好きで遊びのなかで自然と表現が出てくる場面がある。そのため、ホールや保育室からすぐ園庭に出られる環境を生かし、園全体を巻き込みながら、アーティストの方と興味関心を高められるようにテーマを設定した。活動のなかで、身近なものから音や表現を楽しみ、親しみのあるものを新たな視点で見ることによりさらに面白さや気づき、表現の広がりを感じてもらいたいと考えた。

活動 アーティストワークショップ1～4

音から動きを考えると他者と関わる身体の使い方を体験した。楽器の演奏と動きを組み合わせた、雨の音から動きを考たり、音と身体での表現力を育んだ。最終日は園内を練り歩いて他クラスに発表した。

環境をデザインする

●準備した物 カスタネット、タンバリン、トライアングル、鈴、ほか園にある楽器、ギター、ピアノ、日用品を使った楽器、スピーカー

探究活動を実践する

●活動内容（2日目）

1. 最初は1日目の続きで「ノロノロ」「フニャフニャ」など擬音語を身体で表現する「音のものまね」で身体をほぐす。
2. カスタネット、タンバリンなどアーティストが鳴らす楽器の音を身体で表す。
3. 一人ひとりがどんな動きや音を考えたら、フィードバックして全体で共有。
4. 一人一個楽器を持って、音を鳴らしながらその音の動きを考える。
5. 外の雨の音を聞いて、そこにトライアングルの音を重ねていく。
6. 一人一個好きな楽器を選んで、その音で自由に踊る。
7. みんなの感想と次回の内容を予告して終わり。

※1日目は、うさぎを触るイメージでやわらかい動き、音のイメージから動きを考えるなど、まずは身体の動きをいろいろ体験した。3日目は、友だちと協力して動くワークや、音の動きを思い出し後、他クラスの保育室や園庭にパレードに出かけ、他クラスの子どもたちに向けて発表した。4日目は同テーマに基づき別内容で造形ワークショップを実施。

●子供たちの様子

- ・音の動きを考える時には、楽器の形やどうやったら音が鳴るかということもヒントにして、実際に楽器を鳴らしながらアイデアを出していた。
- ・音の大きさや音色の違いから「アリの声みたい」「猫の鳴く音」など、音によって感じるイメージが違うことを体感しながら動きで表現していた。
- ・楽器に親しんだ経験をもとに演奏を披露した。

活動スケジュール（4歳児クラス）

活動内容	実施日	時間/回	人数/回
① アーティストワークショップ1 講師：長谷川暢（ダンサー・和太鼓奏者・音楽家）他1名	R7.7.31 （木）	60分程度	17人
② アーティストワークショップ2 講師：長谷川暢（ダンサー・和太鼓奏者・音楽家）他1名	R7.9.5 （金）	60分程度	15人
③ アーティストワークショップ3 講師：長谷川暢（ダンサー・和太鼓奏者・音楽家）他1名	R7.9.12 （金）	60分程度	18人
④ 運動会で音に合わせて体を自由に動かして登場し、保護者に披露する	R7.10.11 （土）	5分程度	19人
⑤ アーティストワークショップ4 講師：水内貴英（美術家）	R7.11.25 （火）	60分程度	16人



振り返りをふまえた気づき

●保育士から

- ・子どもたちの中には人前で表現が苦手な子がいる中、「個々に違ってOK」「間違いはない」という外部講師の姿勢や声掛けによって、子どもたちが皆のびのびと参加できていた。一人ひとりの声の声に耳を傾け、アイデアを拾って活動に取り入れていくことで、子どもたちの表現に対する意識が高まっていくのを感じた。
- ・活動に参加する・しないを、自分の気持ちに従って、子どもたち自身が取捨選択できる場になっていたと思う。「全員一緒に」ではない場の在り方や参加の仕方の必要性を改めて感じた。